

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【海草振興局】 匠の技伝道師によるミニトマト栽培研修会を開催

令和4年9月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1
1. 匠の技 伝道師によるミニトマト栽培研修会を開催	
2. 土づくり研修会〔新規就農者研修（基礎コース）〕を開催	
II 那賀振興局	2-3
1. いちごの花芽検鏡を実施	
2. J A紀の里あら川の桃部会トレーニングファームの研修開講式が開催されました	
3. 有機栽培ブロッコリーの定植・土壌の検証研修会 ～那賀地方有機農業推進協議会～	
III 伊都振興局	4-5
1. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】 ～農業技術講習会果樹コース（かきの樹上脱渋）の開催～	
2. 高野山麓精進野菜現地講習会を開催	
IV 有田振興局	6-7
1. カメモシビーティング調査を実施！	
2. 有田地方農業士協議会・4Hクラブ連絡協議会合同研修会を開催	
3. 田んぼの学校（有田市立糸我小学校）で稲刈り体験開催！	
V 日高振興局	8-9
1. 「匠」の技術伝承事業ゆら早生研修会を開催	
2. 令和4年度「農トレ！ひだか」～第2回セミナー開催～	
VI 西牟婁振興局	10-11
1. 令和4年度西牟婁地方農業士会連絡協議会経営研修会を開催	
2. 稲成いちご研究会が栽培施設の巡回調査及び意見交換会を実施	
VII 東牟婁振興局	12-14
1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】 ～みくまの産地協議会第3期研修生受講開始～	
2. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】 ～いちご花芽検鏡研修（第2回イチゴセミナー）を実施～	
3. 那智勝浦町の小学生がなすの収穫と袋詰めを体験	
VIII 農林大学校	15
1. 2年生市場流通研修（和歌山市中央卸売市場）を実施	
IX 就農支援センター	16
1. 技術修得研修（第1班）の営農計画発表会及び閉講式を開催	

I 海草振興局

1. 匠の技 伝道師によるミニトマト栽培研修会を開催

県は、卓越した栽培技術を継承するため「匠の技 伝道師」を認定している。今年度は、海南市でミニトマトを栽培している西居正憲氏が新たに認定されたことから、9月9日に研修会を開催し13名が参加した。

研修会は、西居氏のハウスで行われ、8月18日～8月20日に定植されたミニトマトを見ながら、定植時の苗の選び方や水管理、摘花や摘果の方法など説明を受けた。参加者から、追肥の量や病害虫対策などの質問もあり、西居氏は丁寧に答えていた。

今回は、ハウスの加温開始以降に温湿度管理などについての研修会を計画している。



研修会の様子

2. 土づくり研修会〔新規就農者研修（基礎コース）〕を開催

新規就農者の技術向上や定着を目的に、9月29日に農業試験場で土づくり研修会を開催し、新規就農者7名が参加した。

橋本主査研究員が「土を知る～土づくりと土壌診断の基礎～」と題した講義を行い、土壌とは何かという基本的なことや、具体的な土づくりの方法などを学んだ。また、事前に参加者の畑の土壌分析を実施し、その結果による土づくりのアドバイスを受けた。その後、田中主査研究員の案内で農業試験場の環境制御ハウスを見学した。

参加者からは「土壌診断結果を見て、今後の土づくりの参考となった」、「土の改善に取り組みたいところだったので、土壌の基本について学べたのは非常にありがたかった。本日の研修を受けて、改めて堆肥の重要性を感じたのでこの冬頑張っていこうと思う」などの感想があった。

新規就農者が農業を続けていくために、実践的な経験に加え、知識の習得が必要であるため、今後も研修を開催していく。



講義の様子



ハウス見学

Ⅱ 那賀振興局

1. いちごの花芽検鏡を実施

9月2日～26日の内7日間、JA紀の里打田支所ふるさとセンターにおいて、那賀地方いちご生産組合連合会（会長：宇野 仁氏）主催によるいちごの花芽検鏡を実施した。

いちごの花芽検鏡は、顕微鏡で花芽分化の進捗を確認する作業で、定植時期の目安を知るための重要な作業である。特に和歌山県育成品種「まりひめ」は、花芽が未分化の状態ですと定植をした場合、開花がかなり遅れる傾向があるため、花芽分化を確認してから定植する必要がある。

今年度は、生産者が持ち込んだいちご苗327株について、JA紀の里営農指導員（1名）と振興局農業水産振興課職員（2名）が定植適期について指導を行った。

今年度の花芽の分化状況は、8月、9月の気温が平年より高かったことから、遅れている傾向であった。



花芽検鏡の様子

2. JA紀の里あら川の桃部会トレーニングファームの研修開講式を開催

9月22日、JA紀の里あら川の桃部会トレーニングファーム（部会長：前阪隆司氏）の研修開講式が行われた。

本トレーニングファームでは、これまで6名の研修生を受け入れており、今回は第4期生として2名を受け入れ、10月から研修を開始する。

開講式では、まず前阪部会長から「新たに2名の研修生が名乗りを上げてくれて、部会・地域としてうれしい。関係機関の皆様の協力をお願いします」と挨拶があり、続いてJA紀の里の山名専務理事から「部会が主体となり、JA、行政と一緒に産地を守っていくというのは、全国でもあまり例がない。研修生にはJAの協同活動、部会活動の必要性をよく理解した上で、研修に取り組んでほしい」と挨拶があった。

その後、研修生から「2年間の研修を頑張りたい」「就農後は恩返しとして、自分が研修生をサポートできるようになりたい」と抱負が語られた。

最後に、部会役員や研修サポーターから挨拶があり、「研修サポーターはもも栽培のプロだが、教えるプロではない。サポーターによっては言うことが違うかもしれないが、それはそれぞれの農家が試行錯誤した結果。研修生には自分に合ったやり方を自分で選んでほしい」「隣近所と話をすることが大切。良い関係を築けば、農地の話も舞

い込んでくる」といった研修生に向けたアドバイスや、「研修生がこの地に根付いて欲しいので、サポートを頑張りたい」と研修受入れに向けた意気込みが聞かれた。

農業水産振興課では、研修生のスムーズな就農と地域への定着に向け、今後も関係機関と連携して支援していく。



入講式の様子

3. 有機栽培ブロッコリーの定植・土壌の検証研修会を開催 ～那賀地方有機農業推進協議会～

那賀地方有機農業推進協議会（会長：関 弘和氏）では、9月26日に有機農業に興味のある農業者に対してブロッコリーの定植と土壌分析の研修会を行った。

研修会前半の講義では、同協議会の副会長である井上達也氏がブロッコリーほ場の土壌分析結果をもとに、分析項目がどのような意味を持っているか、今回の研修で育てるブロッコリーの場合、適正値はどのくらいで、どのようなものを施肥していくか等を説明した。受講者は、実際に施肥する際の注意点や分析項目で特に注視する項目について、積極的に質問していた。

研修会後半のブロッコリーの定植作業では、講師の指導の下、受講者は一生懸命作業していた。

なお、分析したほ場を施肥設計の違う3試験区に分け、再度土壌分析を行うことにより、施肥による土壌分析の変化や生育への影響を確認する研修を後日行う予定である。

農業水産振興課では、会員らによるグループの自主的な取組を今後も支援していく。



研修会講義の様子



ブロッコリーの定植作業説明

Ⅲ 伊都振興局

1. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】 ～農業技術講習会果樹コース（かきの樹上脱渋）の開催～

9月2日、農業水産振興課では、就農意欲があり基礎技術を習得したい方への技術・経営力向上のため、かきの栽培技術をテーマにした講習会を開催し、11名が受講した。

今年度4回目となる今回は、秋口から収穫期までの管理技術や作業内容に関する座学と樹上脱渋の現地実習を行った。

座学では、はじめに森口普及指導員から、かきの収穫の目安は、果実の色付きによって決定され、有利販売に繋げるためには着色管理が重要であることを説明し、着色促進技術、果皮色と日持ち性が良い果実を作る技術、カラーチャート板を用いた適期収穫の注意点及び収穫後の軟化抑制技術について講義した。

続いて、間佐古普及指導員から、カメムシの被害果が多く、今後も台風通過によりカメムシの多発が続く恐れがあるので薬剤防除が必要になることと、炭疽病が昨年に続き多い傾向のため被害果除去と薬剤散布の徹底が必要であることを説明した。また、農薬の使用基準や取り扱いの注意点についても説明を行った。

現地実習では、九度山町にある藤田普及協力委員の「刀根早生」園に移動し、森口普及指導員から樹上脱渋を実演しながらポイントを説明し、受講生全員で樹上脱渋の袋掛けを実習した。受講者からは「自分の園でも樹上脱渋を試してみたい」との意見があった。

当課では、今後も果樹コースや野菜コースに分けて、農業経営の基礎技術を学びたい生産者に対し、研修を通じて技術指導を行っていく。



座学の様子



樹上脱渋の現地実習

2. 高野山麓精進野菜現地講習会を開催

伊都地域では昔から地元野菜を高野山へ奉納する雑事登（ぞうじのぼり）と呼ばれる伝統がある。そこで高野山麓農産物産地化協議会（構成：農業者、農産物販売業者、橋本市、橋本市農業委員会、J A紀北かわかみ、伊都振興局、オブザーバー：かつらぎ町、九度山町、高野町）では、高野山麓精進野菜としての栽培基準を設け、地元野菜のブランド化に取り組んでいる。

9月1日、高野山麓精進野菜現地講習会を橋本市隅田地区のさといも栽培ほ場で開催し、生産者、新規栽培希望者及び関係者合わせて13名が参加した。

はじめに、久保普及指導員からさといも（品種：ウーハン）について品種特性と連作障害について説明し、続いて、園主の池田利夫氏が定植方法や土寄せなど栽培管理と施肥について説明を行った。

参加者からは「種芋の植えつけ方法」、「収穫時期や出荷方法」、「追肥の施用時期や方法」等の質問があった。

当課では、今後も関係機関と連携して、栽培講習会等を通じて生産拡大を支援していく。



さといも現地講習会

IV 有田振興局

1. カメムシビーティング調査を実施！

9月9日、有田農業技術者会（会長：城村普及指導員）の構成員9名によりカメムシビーティング調査を実施した。

有田農業技術者会は、有田地方の農業の発展・振興を目的として活動している団体で、JAありだ、JAグループ和歌山農業振興センター、NOSA Iわかやま中部支所、有田川土地改良区、有田中央高校、近畿大学附属農場湯浅農場、県果樹試験場、有田振興局農業水産振興課で構成されている。

調査は、例年どおり広川町と有田川町の山林15カ所で、温州みかんなどの果樹を加害するカメムシを対象に行った。捕獲できたカメムシの数、エサとなるスギやヒノキの球果（きゅうか）の数から今後の樹園地への飛来量を予想している。

今年のカメムシ捕獲数は4匹（うち死骸1）で、去年の14匹より少なかった。球果については広川町の4地点で普通、他の11地点で無～少であり、カメムシが大量発生する可能性は低いと考えられる。

この結果を踏まえ、高品質な果実生産に向けた技術対策について、意識統一を行った。



捕虫網によるビーティング調査

2. 有田地方農業士協議会・4Hクラブ連絡協議会合同研修会を開催

有田地方農業士協議会（会長：森田耕司氏）・有田地方4Hクラブ連絡協議会（会長：亀井勇希氏）主催の合同研修会が開催され、各市町から農業士・4Hクラブ員、関係者合わせて21名が出席した。

今回の研修会は、新型コロナウイルス感染症対策で密を避けるため、9月9～14日に各支部ごと4回に分けて開催し、県研究推進室が果樹試験場に配置したアシストスーツの使い心地を検討した。

アシストスーツは3タイプあり、それぞれ体格に合ったサイズのアシストスーツを試用した。アシストスーツは板バネやゴムの反発力を利用したものであり、持ち上げ作業への効果は限定的であったが、同じ姿勢を維持する作業の場合効果が高いのではないかとの意見であった。どのタイプにしても足腰を拘束する必要がある、その点については個人によって好みが変わるところであった。



広川町支部の研修風景



湯浅町支部の研修風景

3. 田んぼの学校（有田市立糸我小学校）で稲刈り体験開催！

有田市立糸我小学校では、糸我地区青少年育成会主催のもと、アイガモ農法による米づくりに取り組んでいる。

9月27日には、1年生見学のもと、5年生による稲刈りが行われた。地元農家が支援し、「田んぼの学校」の校長である山崎佳彦氏（元指導農業士）指導のもと、鎌を使って稲刈りを行った。

なれない鎌を持ちながらの作業では、楽しみながら上手に刈り取ることができた。

今後も、農業水産振興課では地域の農業者と共に、食育活動の支援を行っていく。



稲刈り体験



稲を片手に全員で記念撮影

V 日高振興局

1. 「匠」の技術伝承事業ゆら早生研修会を開催

9月5日、スマート農業実演会と合わせて、「匠の技 伝道師」に認定された塚本 亨氏の園地でゆら早生（温州みかん）研修会を開催し、日高地方4Hクラブ員、農業士、JA紀州果樹部会員等46名が参加した。

塚本氏は、「ゆら早生」の高度な整枝・せん定技術や植物成長調整剤を活用した高い技術を有し、高品質多収生産を実現している。

研修会では、樹齢の異なる「ゆら早生」の3園地を巡回し、栽培のポイント等を説明した。仕上げ摘果がほぼ終了した時点で開催したこともあって、着果状況がよくわかり、参加者は自身の園地との違いを実感していた。特に、着果が良好で樹勢もよく保たれていることに対して、感心する声が上がっていた。

今回は、来年2月頃、作業のポイントとなるせん定研修会を計画しており、若手農業者等へ匠の技術が伝承されるよう取り組んでいく。



集合する参加者（日高川町若野）



塚本氏による着果状況の説明

2. 令和4年度「農トレ！ひだか」～第2回セミナー開催～

9月7日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：岡 有輝氏）と農業水産振興課との共催により、管内の若手農業者や新規就農者等を対象とした研修会「農トレ！ひだか」第2回セミナーを開催した。日高地方4Hクラブ員他合わせて16名が参加した。

今回は、「雑草」をテーマとし、講師に農業試験場の松本主査研究員、三井化学アグロ（株）の沢田善宏氏、草生栽培実践農家の瀧本雅史氏を迎え、雑草の生態や除草剤についての講演、草生栽培及び自動灌水装置設置園地の見学を実施した。

まず、松本主査研究員からは、農業の長い歴史の中でその時々々の農業形態に適応した生態や生存戦略をもつ雑草の特性の説明があった。「今後さらに農業形態の変化があると思われるので増えていく雑草、減っていく雑草がある」とのことであった。

次に、沢田氏からは除草剤、種類別の使い分け、効果の出方、散布時のポイントにつ

いて説明があり、参加者からは除草剤の混用散布や散布後の土のpHの変化などについて質問があった。

最後に瀧本氏から日高川町の柑橘園地における草生栽培の状況や使用しているクラピア（イワダレソウ改良種）の特性、自動灌水装置について、現地で説明を行った。瀧本氏は「草生栽培の効果としては、草を草で抑えるという発想による除草効果、腐植の増加、土壌の流亡抑制があげられる」とメリットについて話した。

参加者からは「雑草について体系的に学べてよかった」や「草生栽培を実践してみたい」などという声があった。

今後も4Hクラブ連絡協議会と当課の共催により「農トレ！ひだか」を実施していく。



開会あいさつ（初山副部長）



雑草に関する講演（松本主査研究員）



除草に関する講演（沢田氏）



草生栽培に関する説明（瀧本氏）

VI 西牟婁振興局

1. 令和4年度西牟婁地方農業士会連絡協議会経営研修会を開催

9月9日、県情報交流センターBig・Uにおいて、西牟婁地方農業士会連絡協議会（会長：谷本喜久氏）が経営研修会を開催し、会員および関係者あわせて約30名が出席した。

この研修会は、農業士が一堂に会し、今後の農業経営の向上、地域農業の発展、地域の活性化につなげることを目的に開催している。

はじめに、みなべ町でうめの加工販売や就農希望者の支援を行っている梅ボーイズ代表の山本将志郎氏から「梅ボーイズの取り組み」と題して講演があった。

山本氏はうめ産地の将来に危機感を持ち、梅干し製品を作って軽トラで全国販売を行い、失敗しながらも販路開拓を進め、年商6,000万円まで売り上げを伸ばした道のりや仲間と耕作放棄地を管理し、就農希望者が園主となって栽培できるようにする取り組みについて話があった。

次に、青年農業士の山本宗平氏から、昨年度わかやま農業MBA塾を受講して作成した経営計画の内容について発表があった。耕作放棄地を借り受け、従業員を雇用しうめや柑橘、いちご等を栽培しており、今後は紀中や紀北とあわせて3拠点での栽培を展開し、各産地の強みを生かして直売所や通信販売に取り組むことにより「山本農園」のブランド化を図るとのことであった。

参加者からは、「全国で販売活動する中で、白干しやしそ漬け梅を食べた消費者の感想はどうだったか」「多品目を栽培している中で、各販売先での品目の仕分けをどうしているのか」「自分も生産拠点を増やしたいと思っているので、これからも情報交換してほしい」等の意見があった。

今後、現地研修会等も予定されており、農業水産振興課では同協議会の活動を支援していく。



山本将志郎氏講演



山本宗平氏発表

2. 稲成いちご研究会が栽培施設の巡回調査及び意見交換会を実施

稲成いちご研究会（会長：宮本誠士氏）は、毎年、定植前と共同出荷前の2回、栽培施設の巡回調査や意見交換会を行っており、9月15日に研究会会員7名、JA紀南職員2名、農業水産振興課谷普及指導員の計10名が参加して開催された。

はじめに、会員の育苗ハウスを巡回し、生育状況を確認した後、JAから令和3年産いちごの消費動向や販売実績について説明があった。次に当課から、普及指導計画として研究会会員の栽培施設で実施している炭酸ガス施用によるいちごの収量、品質（糖度）、生育への影響に関する調査結果や今後の取組について説明した。

会員からは「3月以降の販売先を確保し、単価を維持するためには、大阪市場への出荷をさらに増やしていく必要がある」、「2月の収量が少ないので、施設内環境を把握し、低温期の栽培管理上の課題を整理する必要がある」、「適切な炭酸ガス施用で、収量や品質向上が見られるのがよく分かった」等の意見があった。

当課では、今後ともJAと連携し、高品質安定生産に向けて、栽培施設の巡回調査や意見交換会で情報を共有するなど、同研究会の活動を支援していく。



育苗ハウス巡回



意見交換会

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお莓”産地の体力強化】 ～みくまの産地協議会第3期研修生受講開始～

9月1日、みくまの産地協議会（会長：漆畑繁生氏）の第3期研修が開講し、JAみくまのトレーニングファームにおいて研修生と当協議会員、東牟婁振興局農業水産振興課職員が出席した。

第3期の研修生は、大阪からのIターン者で、新宮市においていちごでの就農を希望している。

研修開始に当たり、当協議会の亀井研修責任者が「当協議会の研修は一年間の短い期間ですが、しっかり学んでいただき希望するいちご農家として就農し、自立してもらいたい」と、研修生を励ました。

また、JAトレーニングファームの笹平場長は「JAトレーニングファームで農業の基礎技術を身に付け、生産農家のほ場においていちごの実践技術を修得する」という研修の概要を研修生に説明した。

さらに、橋本普及指導員は「研修において技術の修得も重要であるが、天候や作業内容などの詳細、かつ一年間とおして記録しておくことが、今後の作業の参考になる」と研修内容記録の重要性を研修生に指導した。

今後も当課は、同協議会のオブザーバーとして、当研修生をはじめ、JAトレーニングファームを拠点とした新規就農希望者の受け入れ等を支援していく。



みくまの産地協議会第3期研修開講



いちごの栽培管理研修
(JAトレーニングファーム)

2. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお莓”産地の体力強化】

～いちご花芽検鏡研修（第2回イチゴセミナー）を実施～

9月20日にくろしお莓生産販売組合（会長：栗野稔近氏）は、いちごの花芽検鏡研修会（第2回イチゴセミナー）を開催し、参加者13名（内新規就農者5名、みくまの産地協議会研修生1名）と、指導者としてJAみくまの職員1名、農業水産振興課職員2名が参加した。

坂井普及指導員がいちごの花芽検鏡は、花芽の分化程度を確認することで、苗の定植する時期の決定や出蕾、収穫時期の予測をするための重要な作業であることを説明した後、参加者は“まりひめ”を用いて実習を行った。

参加者からは、「花芽分化を確認することの大切さが分かった」、「前処理は作業が細かくて難しいが見られるようになりたい」などの感想があり、有意義な研修となった。また、花芽検鏡の結果、花芽分化がやや遅れていたことからいちごの定植時期を遅らせるように指導をした。

当課では、関係機関と連携しながら、栽培技術の向上や新規就農者の育成等、くろしお莓生産販売組合の活動を支援していく。



花芽検鏡の前処理実習



花芽検鏡方法の説明

3. 那智勝浦町の小学生がなすの収穫と袋詰めを体験

9月6日、那智勝浦町立宇久井小学校3年生23人は、新宮市佐野でなすの収穫と袋詰めを体験した。この取組は、新宮周辺地場産青果物対策協議会（会長：小田三郎氏）が中心となり、地産地消推進活動の一環として小学生を対象に開催している。

児童は、なす畑で瀧谷弦氏（くろしおナス組合会員）から収穫の方法や注意点について説明を受け、瀧谷氏や坂井普及指導員の指導に従い、傷のない大きな実を探して1個ずつはさみで収穫した。

収穫後、児童は新宮公設市場で、自分で収穫したなかから、形や大きさのそろった3

個を選び、児童が作ったオリジナルのラベルと一緒に袋詰めした。

袋詰め終了後には、児童から瀧谷氏に「なすはどのように料理したら一番おいしいか?」「なすの敵は何か?」「いつからなすを栽培しているか?」「何時くらいから収穫しているのか?」等質問が多くあり、瀧谷氏は丁寧に回答した。

袋詰めしたなすはその日、校区内の商店で販売された。

この他、9月12日には太地小学校3年生14名を対象に那智勝浦町南大居でもなすの収穫体験を実施した。

当課では、今後も同協議会の活動を支援していく。



なすの収穫方法の説明



児童からの質問

Ⅷ 農林大学校

1. 2年生市場流通研修（和歌山市中央卸売市場）を実施

9月29、30日に和歌山市中央卸売市場で市場流通研修を行い、本校2年生13名が参加した。

研修初日は和歌山市青果仲卸業協同組合理事長の（株）大正丸 川崎悟代表の場内案内により、果物・野菜の主な取扱品目、果物や野菜のセリの方法、冷蔵・冷凍施設等について説明を受け、続いて和歌山市中央卸売市場の西林技術主査に市場の歴史や市場の果たす機能について説明を受けた。

2日目はセリの見学や、5班に分かれて仲卸会社5店舗でそれぞれ説明を受けながら作業を行い、市場での農産物流通の仕組みや売れ筋品目について学んだ。

学生からは、「市場の機能や役割が分かった」「市場ならではの話が聞けた」「朝が早くて眠かった」という感想があった。

農林大学校では、農産物流通の実態を学ぶために来年度も引き続き市場流通研修を行う。



市場施設の説明



セリの説明

IX 就農支援センター

1. 技術修得研修（第1班）の営農計画発表会及び閉講式を開催

9月9日、就農支援センター研修館において、技術修得研修（第1班）の営農計画発表会及び閉講式を開催した。

技術修得研修（第1班）は、5月から9月まで5カ月間（計25日）、トラクターや管理機などの農機具の使い方、うめ・ブルーベリー・たまねぎなどの収穫、花き類の種などの実習や講義を行った。

営農計画発表会では、修了生（5名）が、研修を通じて学んだことを踏まえ、自らの3年後、5年後を見据えた営農プランを発表し、意見交換を行った。

テーマについては、「半農半X 健康的に暮らしたい」、「有機栽培で、種とりをしながら野菜作りをする」、「農地カフェの経営・休耕地再生及び有効活用」などがあった。

閉講式では、中谷所長から修了生一人一人に修了証書を手渡し、「これから農業を行うにあたり大変なこともあります、健康に気をつけて無理をせず、夢に向かって頑張ってください」と激励の言葉を送った。

なお、第2班については10月から開始する予定である。



営農計画発表



修了証書授与

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489